



革新的深海資源調査技術

News Letter

Vol. 8

13 May., 2019



プログラム報告会開催

SIP革新的深海資源調査技術では、2019年3月18日（月）にイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）において「革新的深海資源調査技術報告会～深海に眠る『海の恵み』の探索と新たな可能性への挑戦～」を開催しました。

報告会では、須藤亮内閣府プログラム統括による開会挨拶の後、石井正一プログラムディレクターより、主に映像を利用してプログラムの説明がありました。さらに、各テーマリーダーからは、平成30年度に実施した航海の概要を交えながら、成果報告がありました。

報告の後は、「深海に眠る『海の恵み』の探索と新たな可能性への挑戦」と題し、各界の有識者によるパネルディスカッションが行われました。来場

者についても、SIP第1期の関係者を含め、産学官から約220名の参加がありました。

パネルディスカッション ～深海に眠る『海の恵み』の探索と 新たな可能性への挑戦～

パネルディスカッションでは、寺島参与をモデレータに迎え、パネリスト4名（朝日取締役、湯浅フェロー、河合理事長、東理事）によるパネルディスカッションが行われました。

深海資源を巡る国内外の情勢を俯瞰しつつ、技術的課題と産業化に向けた課題について議論されました。（裏面へ続く）



須藤プログラム統括による開会挨拶



石井プログラムディレクターによる成果報告

それぞれのパネリストの主要なコメントは以下の通りです。〈敬称略〉

寺島：本プロジェクトは、海洋基本法・基本計画の理念や政策に沿ったものであり、産業界の積極的参画を得て、新たな海洋立国の実現の要請に応えて行くことを期待。

海洋ガバナンス追求の国際的取組みの中で、各国の海洋力が問われている。

朝日：陸上の優良鉱山のほとんどは開発が進み、現在残っているのは難易度の高い案件がほとんどである。陸上でも、鉱山に作業の効率化のためのデジタルテクノロジーが導入され、自動運転や遠隔操作が進展している。

湯浅：これまでのAUV開発で、スコットランドにて海中でのドッキング、充電及び光通信の海中試験を実施してきた。SIPが目標としている6,000mもの深海となると技術的に困難な課題も多いが、これまでの実績を踏まえ、我が国の強みを伸ばして行くことが重要である。

河合：民間4社により文部科学省認可法人として技術研究組合を組成した上で、第1期5年間の研究開発に参画した実績を用いて、第2期のテーマ3が目指す、民間への技術移転や海洋産業の活性化を含めた、産業化モデルの構築を進めている。

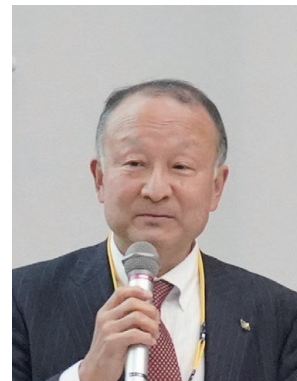
東：本プログラムで得られる知的財産に関しては、むやみに公開せずに必要な人に使用していただくという「オープン・クローズ戦略」を実践している。また、若い人の参加を促すべく、人材育成も進めていく必要がある。



モデレーターを務めた寺島敏之 笹川平和財団参与



朝日 弘
住友金属鉱山株式会社
取締役 常務執行役員・資源事業本部長



湯浅 鉄二
川崎重工業株式会社
船舶海洋カンパニー フェロー



河合 展夫
次世代海洋資源調査技術研究組合
理事長



東 垣
海洋研究開発機構
理事長

今回の報告会は、SIP第2期の初年度を集大成する場となりました。各パネリストから戴いたご意見や会場からのご質問を、今後のプロジェクトの推進に反映してまいります。